

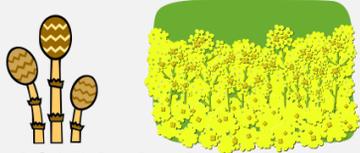


## 為せば成る (なせばなる)

人間その気になればできないことはない。どんなことでも強い意志をもってやれば必ず成就できるということ。

「為せば成る為さねば成らぬ何事も 成らぬは人の為さぬなりけり」これは高鍋縁の米沢藩主、上杉鷹山の言葉です。

東中生は、志を高くもち、何事にも挑戦し、努力する人になってほしいと願います。



## 立志式

参観日に2年生の立志式が行われました。一人一人がこれからの決意を表した書を示し、立志の決意の群読が行われ、立派に成長している姿を見せてくれました。この機会に書いた「将来の夢」を紹介します。

2年生

私の将来の夢は、農家になることです。そこで僕は農家になるために必要なことを調べてみました。農地はもちろん、農作物を育てる技術と知識が必要です。安定した収穫を得るためには、地質、肥料などの化学の知識も必要になります。農家に向いている人はコツコツと丁寧に仕事ができる人だそうです。判断力、コミュニケーション能力も重要です。また、一つの農作物に真剣に向き合いながらも、周囲の人と助け合っている人が向いているそうです。農家の一番のやりがいは、自分の手で一から農作物を育て、その成長を目の当たりにすることです。また、自分が育てたものを消費者に喜んでもらえること、さらには自然とともに生活する喜びを感じることができることも大きな魅力の一つと言えます。僕がなぜ農家になりたいかという、自分の手で一から農作物を育て、消費者にいっぱい食べて喜んでほしいからです。そのためにどんな人になりたいかという、コツコツと丁寧に仕事ができる人、継続力のある人になりたいと思っています。そして誰にでも優しく接する人間でありたいです。農家になって、自分も人も喜べるような生き方をしたいです。

2年生

私は将来、カンフーで日本代表になりたいと思っています。そして、世界大会に出場し海外に行きたいです。カンフーはマイナースポーツなので、もっとたくさんの人に知らってもらうために、まずは自分が大会で成績を残すことだと思っています。私は、一人のアスリートとしてまだまだなところがあります。あいさつや返事、整理整頓、積極性などです。あいさつや返事については、練習の時、コーチに教えていただいた時、そこを直すことに集中しすぎて返事の声が小さくなる場合があります。整理整頓は、大会参加したときに荷物が散らかっていたことがありました。きちんと身の回りを整えられる人は、印象が良いだけでなく、実力も強い人が多いです。積極性は、自分の考えに自信がなくて、行動することがありました。これらは今からでも直せることです。アスリートとして、成長しなくてはならないことがたくさんあるので、コツコツと頑張っていきたいです。自分の夢を叶えるために、これからも努力していきます。



## 学校安全

2月6日に学校安全の取組を進めてきた本校、高鍋西中、高鍋農業高校がSPS（セーフティープロモーションスクール）推進校として認証を受けました。この1年、防災意識を高めたり、AED使い方の研修を部活動のキャプテンと実施するなど様々な取組をしてきました。このSPS認証を受けたことで、さらに生徒の意識が高まり、このことが各家庭や地域の意識を高めるきっかけとなれば幸いです。これからも充実した学校安全の実践を行っていきたいと考えています。



## なわのおび賞

今年度、本校からの推薦として、毎朝、あいさつ運動に取り組むバレエ部が受賞することになり、2月7日に石井十次顕彰会会長から賞状が授与されました。暑い日も寒い日も雨の日もあいさつ運動に取り組む姿は、本校生徒の見本であり、地域の方々からも感心とともに認められた取組だと思えます。



## 学校評価アンケートから・・・

学校の取組状況を把握し、次年度に生かしていくために学校評価を保護者、生徒、教職員で行います。先日は、保護者の方々にご協力いただきありがとうございました。

気になる部分としては、「子どもさんは、自分から進んで家庭での学習に取り組んでいますか。」の問いに、「そう思う・だいたいそう思う」が56%で、「あまりそう思わない・そう思わない」が44%でした。全国学習状況調査の質問においても、本校は、家庭学習の時間が、全国と比較してもずいぶん少ない結果でした。

また、今回のアンケートの記述欄に「宿題が減った」との指摘がありました。学校としては、宿題はこれまで同様であり、教科の履修内容等必要に応じて出されています。しかし、自ら学ぶ姿勢を養う目的で出されていた宅習は、「やらされ感がある」「やりたい勉強ができない」「負担となっている」「実際に効果が見られるのか」といった生徒の意見等から課題として出さなくなっています。

ある識者は、今日の日本の教育は「子どもに与え続ける教育」であり、「子どもたちは与えられることになれ、当事者意識がなくなっている。手をかければ手をかけるほど自立できなくなり、自分がうまくいかないことを誰かのせいにするようになる。主体性を失い自分も他人も嫌いになり不幸な気持ちになる。」と言っています。

学校からの課題は、学習を習慣化させるという意味では、小学校の低学年には有効ですが、中学校では、提出することが優先や教師から言われるから提出するなど、生徒の知識・技能の習熟にはつながっていない現状があります。だからこそどうすればいいのか・・・

「なぜ学ぶのか」という意識付けがしっかりなされていれば、生徒たちは、多少の困難を乗り越え、主体的に学ぶ姿勢を維持できると思います。このことを学校と家庭が共通理解し、子どもたちのために、さらに連携・協力していくことが必要と考えています。どうぞよろしくお願いいたします。



【後記】 バスケットボール男子が、先日の大会で優勝し、福岡での全九州中学生春季大会に出場しました。快挙です！！今後のさらなる飛躍が楽しみです！！(校長)